



かまくら

防災特集号

9月1日は
防災の日

■ 地域でつくる自主防災……………2・3

■ 防災インフォメーション……………4

明日、鎌倉を 災害が襲ったら



由比ヶ浜



鶴岡八幡宮 上宮 楼門



建長寺 旧方丈



現・鎌倉生涯学習センター付近

現・下馬ガード下付近

大正12(1923)年9月1日に発生した関東大震災では、当時の鎌倉も被害に遭いました。建物崩壊のほか、長谷や小町など繁華街を中心に大規模火災、海岸部は津波に見舞われ、市内の約85%の家屋が全半壊・焼失・流失・埋没、死者も400人以上にのぼったといわれています。
◎『鎌倉震災誌』より。写真は中央図書館蔵

本当に行動できる自助・共助を

防災の基本は、「自助」「共助」「公助」。
本号では、自助・共助について特集します。

災害は、いつ起こるか
わからないものです。
そのとき、自分と家族を、
守る方法を考えていますか？
それを実際に行動に移すことが、
できるでしょうか。
もしものために、
今、やっておけることがあります。



総合防災課 ☎内線2615

「共助」に参加してください。そのとき、みんな助かるために。

地域ごとに異なる課題、地域でつくる自主防災の取り組み

海岸部

津波被害・風水害などへの備え
材木座自治連合連絡協議会

津波対策と同時に、コミュニケーションの輪を広げる

平成19年に防災部会が発足して活動していましたが、東日本大震災を受け、各自治会の意識がさらに高まりました。23年6月に新たに活動の場を広げ、海拔20メートル以上の高台避難場所への地図を作成して全戸配布しました。今年、平日の合同訓練で853人の参加がありました。その時のアンケート283枚の問題点を分析し、優先順位を付けて一つずつ解決してまいります。ミニ避難所ルート(通常の避難経路を補足する近道)の開拓、総合防災倉庫や海上に警告する電光掲示板の設置なども進めています。次回の訓練は、

若者も参加できるよう休日に行います。住民のコミュニケーションを良くすることも大切です。地元でお祭りや炊き出し訓練などのイベントを開催することは、住民同士の連帯感や絆が生まれるチャンスです。有事の際には大きな力となるよう期待しています。



材木座自治連合連絡協議会
理事総務の浪花恵昭さん



講師を招いて勉強会をし、「逃げ地図」を作成。川の流れや地形から考えた津波浸水予想ライン、老人の徒歩分速43mを考慮しながら避難目標ポイント、逃げる方向とかかる時間を組み込んだ



逃げ道が急斜面なため、登りやすくする手すりを設置



市と協力し、海拔表示(左)と津波避難経路路面シート(道路36カ所=右)を貼った。土地に不案内な人にも助けとなるようにした

材木座自治連合連絡協議会の主な防災活動

- ・活動内容…材木座地区合同避難訓練(参加者853人=今年)のほか、防災に関する地図の作成・配布、避難経路表示、避難路への手すり設置など
- ・活動人数…11の自治・町内会から約3人ずつ選出された31人と、オブザーバーで防災部を組織し活動
- ・活動ベース…23年6月に結成、毎月1回防災会議を開催している



材木座公会堂で毎月開かれる防災会議

自分が住む地域に、どんな災害の危険があるか、ご存じですか。
どんな備えが必要か。どこへ行けば、何があるのか。
今、災害が起きたら、自宅の備えだけで家族を守ることができるでしょうか。
市内のほぼ全域で、自主防災組織をはじめ、地域みんなが助かるための防災が行われています。
まず、知ってください。そして、参加してください。
それぞれの課題を抱えた地域の取り組みをご紹介します。

土砂災害警戒区域

土砂災害、孤立などへの備え
打越町内会

地域の特性に合った備蓄と訓練で、土砂災害に備える

打越町内会は、山や崖が多く、地震や大雨のときは崖崩れなどの土砂災害とそれに伴う地域の孤立が心配です。日頃から危険箇所を確認しておくことや、川の水が濁るなどの災害に結び付く兆兆を見逃さないことが大事です。町内会の中には、30~40代を中心とした「打守会」や高齢者を中心とした「いぶきの会」などがあり、町内会の行事に積極的に参加してくれています。住民間のコミュニケーションは取れているほうですが、より多くの人にお祭りなどに積極的に参加してもらうことで、幅広い世代のつながりを深め、災害時に力を最大限発揮できたらいいですね。また、これからの地域を担う子どもたちにも防災について学んで欲しいです。ロープの結び方やAEDの使用法について定期的に教室などを開催していますが、興味を持ってもらえるように遊びを取り入れながら行っています。



打越町内会会長の久保田早苗さん(右)、
副会長・防災部長の小川博さん(左)

打越町内会の主な防災活動

- ・活動内容…組長会議での防災講話(年4回)、救急法の講習(年1~2回)、防災訓練(年1回)
- ・参加人数…防災講話には約30人、防災訓練には約60人が参加



子どもを対象とした「ロープの結び方」教室。遊びの要素を取り入れると子どもたちにも覚えやすい



土砂災害を想定して、防災倉庫にはハンマーやボールなども備蓄している



独自に作成した冊子。包帯の巻き方など、イラストも一緒に掲載



町内会の域内いくつかある崖崩れが心配される場所

市域の北西部

地域・情報の孤立などへの備え
城廻自治会自主防災隊

どう助け合えるか? できることをやっていく

自治会長の呼び掛けで集まった40代前後の若い世代を中心に、自主防災隊を結成して4年。継続的な活動ができるようになり、充実した組織になりました。この地域は津波や土砂災害の心配はそれほどありません。しかし、市域のはずれにあるため情報が入りにくく、孤立してしまうかもしれないという危機感があります。自治体でできることには限界があるので、自分たちの地域は自分たちで守らなければならないという意識が根底にあります。ミニ防災拠点である関谷小学校に入ってくる情報を伝達できるよう、昨年トランシーバーを購入し、安心感も増しました。近隣自治会とも積極的に交流し、情報交換に努めています。今後は市との連携など課題はありますが、まずはできることをやっていく。地域ぐるみで楽しんで活動しています。



倉庫は3カ所にあり、場所に合わせた中に入れるものを分けている。右下に見えるのは、市内の自治会では数カ所しか保有していない可搬ポンプ。「活動を通して地域の交流も深まりました」

城廻自治会防災保全部長・城廻自主防災隊副隊長の江上健さん



いざというときに使えるよう資機材のメンテナンスは月1回。自治会の人は誰でも参加できる



防災訓練で防災グッズの販売会を実施。消防職員を招いての救急救命や消火器の使い方講習会、炊き出しも行い、交流の場にもなる



トランシーバー4台を購入。救助が必要な人がいる場所などの情報伝達も可能に

城廻自治会自主防災隊の主な防災活動

- ・活動内容…資機材のメンテナンス(月1回)、秋と冬の防災訓練、宿泊訓練(昨年)、玉縄まつりへの出店など
- ・活動人数…自主防災隊員は現在40人以上。秋の防災訓練には約100人、宿泊訓練には約150人(うち宿泊は57人)が参加

保護者発の防災

実際の避難所生活への備え
かっぱの会

避難所を体験することで自ら防災を考える

阪神大震災の時、避難所には鍵が掛かっていたためガラスを割って中に入ることもあったと聞きます。その後、東日本大震災が起こりました。私たちの避難所は実際にどう機能するのかという疑問から、2年前から第二小学校で宿泊体験を行っています。参加者は各自必要と思う物を持参、「寝袋だけでは腰が痛い」「学校には網戸がない」「体育館のトイレは2階にしかない」など体験することで発見があります。2日間の活動を振り返る会では、子どもたちからも「防災倉庫の場所も、中に何があるかも知らなかった」「人が大勢いたら、狭くて寝られない」「初めてマッチを使った」などの発言がありました。



「かっぱの会」代表の波多周さん(左)。同会は第二小学校の父親と男性教職員を中心に活動している

災害に備えて家族、隣近所、地域でできることをそれぞれ考えながら日頃から準備をしていけたら。体験を共有することで親子、地域の方々とも信頼できる人間関係が築ければいいと思います。



各家庭で持参した寝袋などを使い、教室に宿泊する



備蓄倉庫を見学しながら、市職員による説明を聞く



校庭の側溝で火をおこし、飯ごうでご飯を炊く

かっぱの会の主な防災活動

- ・活動内容…避難所(ミニ防災拠点)である第二小学校で、避難所生活を体験する
- ・活動人数…第二小学校児童と家族、教職員、地域の人など70人が参加、うち50人が宿泊(今年)
- ・活動ベース…毎年7月に開催、今年で3回目

共助II地域で助け合う
防災の基本には、「自助」「共助」「公助」の三つがあります。

自助:自分で自分・家族・財産を守る備えと行動
共助:隣近所と協力して、地域を守る備えと行動
公助:市・警察・消防などの行政機関や、ライフラインの管理者などが行う応急対策・活動

災害規模が大きく広域的なほど、自治体や関係機関も被災し、対応の遅れも予想されます。そこで重要になるのが、自治・町内会で組織される自主防災組織など、地域の皆さんの活動(共助)です。現在、市内の自治・町内会の約9割が共同住宅の管理組合(含む)が自主防災組織を結成し、防災倉庫の備蓄や整備、避難訓練や学習会など、災害時に備えた活動を行っています。PTAなど、有志が中心となって独自の活動を行っている団体もあります。

共助の持つ大きな力

東日本大震災でも、共助が大きな役割を果たしました。自力脱出が難しい状況下での救出・応援の要請、火災が同時多発的に起こった場合の初期消火、避難所での助け合いなど、多くの場面共助が必要になってきます。市では、震災を踏まえ、地域での実践・参加型の訓練などに力を入れています。7月に初めて実施した沿岸部一斉津波避難訓練では、自治・町内会での避難方法などを考えていただき、課題などの情報収集も行っています。

参加状況に課題

地域ぐるみで行う共助には、連携やコミュニケーションが大切で、日頃から一緒に活動する機会をつくることが不可欠です。しかし市内では、実際の自主防災活動への参加率は、決して高くありません。これは、活動が縮小されることにつながります。参加者には高齢者が多く、若い人が少ないのも厳しい現状です。震災以降、津波避難訓練などへの子育て世代などの参加は増えてきました。より多くの皆さんの一歩が、今望まれています。

参加するには

まず、お住まいの地域の自治・町内会にお問い合わせください。自主防災組織の活動は、年1~2回の防火・防災活動や講話が代表的ですが、各組織により活動内容やペースは大きく異なります。活動や催しは、回覧板や町内会などの掲示板で、随時お知らせされています。

市では、地域の防災訓練や研修への講師などの派遣、防災資機材の購入費や整備費の助成を行い、自主防災組織の活動を支援しています。また、鎌倉市自主防災組織連合会のもと、組織間の連携も図っています。

一方、「公助」についても、防災計画・施策の充実や見直しを図り、より良い防災に取り組んでいきたいと考えています。

さて、共助のためには、自分で自分を守る自助が前提です。次のページでは、自助・共助に関わる防災情報をまとめました。

自助・共助のための 防災インフォメーション

圏総合防災課
内線2615

備蓄品の再点検を

行政機関が備蓄する量にも限りがあります。災害に備えて、食糧・飲料水や乾電池などの買い置きをお勧めします。

避難するときの 非常持ち出し品

- 貴重品(現金・通帳・印鑑・保険証など)
- ヘルメット・防災ずきん
- 懐中電灯・ラジオ・予備電池
- 非常食・飲料水
- 救急医薬品・常備薬
- 衣類・軍手・ナイフ・缶切り・ライターなど

いざというときの
ために、常にLED
ライトや笛を持
ち歩きましょう。

自力で生きるための 備蓄品(最低3日分)

- 非常食と飲料水
- 生活用品(カセットコンロ・予備のボンベ、毛布、衣類、トイレットペーパー、ビニール袋、ラップ、生理用品など)
- 工具類(家屋の倒壊に備え、スコップ、バール、のこぎり、車のジャッキなど)
- 簡易トイレ など

再確認を！ 家の内外の安全対策

- 家具の固定、窓などに飛散防止フィルム、就寝時も履物を用意、屋外・敷地外への避難経路の確保 など

避難経路・場所は？

地図などを見て、どこへ、どの経路で逃げるか、普段から確認しておきましょう。

市では津波、洪水・内水、土砂災害のハザードマップをお配りしています。

災害用伝言ダイヤル171

災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される「声の伝言板」です。171をダイヤルし、ガイダンスに従って伝言を録音・再生してください。

◆毎月1日・15日の0:00~24:00や、防災週間(8月30日の9:00~9月5日の17:00)などに体験利用できます

地震を想定した一斉訓練 「かながわシェイクアウト」 を実施します



県では、9月5日(木)の11:00に、地震発生時の安全確保行動を県内全域で行う「かながわシェイクアウト(いっせい防災行動訓練)」を実施します。

会場に参加者を集める防災訓練とは異なり、事前にインターネット登録した皆さんが、一斉に自宅や職場などそれぞれの場所で、下図の「①ドロップ! ②カバー! ③ホールド・オン!」の安全確保行動を、約1分間行うものです。

市でも同時刻に本庁舎・分庁舎などで行います。詳細は「かながわシェイクアウト」で検索してください。

圏災害対策課 ☎045-210-3425

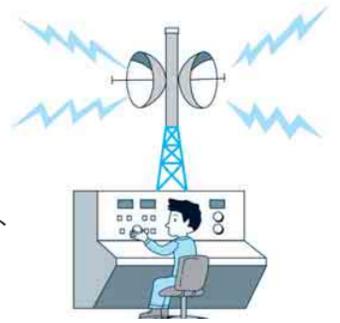


- ①ドロップ!
(まず低く!)
- ②カバー!
(頭を守り!)
- ③ホールド・オン!
(動かない!)

情報はここで

防災行政用無線(防災かまくら)

気象情報や防災情報などを放送します。地形や風向きなどで聞こえにくい場合のため、次の対応を行っています。



①防災・安全情報をメール配信

防災行政用無線の内容を、パソコンや携帯電話にメール配信しています。携帯は右のQRコードから、パソコンは<https://service.sugumail.com/kamakura/>で登録を。



②消防テレホンサービス ☎0120-24-0467

防災行政用無線の内容を、電話で聞くことができます。通常は火災・災害発生情報のほか、消防からのお知らせが流れています。圏指令情報課 ☎25-7510

③鎌倉エフエム 82.8MHz

④鎌倉ケーブルテレビ 地デジ11CH

いずれも番組中に、防災行政用無線の放送内容を割り込み放送します。

⑤市のホームページ

防災行政用無線の放送内容をトップページに掲載します。「鎌倉市役所」で検索を。携帯サイトは右のQRコードから。



災害コールセンター(災害対応窓口)☎23-3000

市域全体に被害の恐れがあり、市民の皆さんからの問い合わせ窓口を一本化する必要がある場合に設置します。

気象庁が「特別警報」の運用を開始

気象庁は、8月30日から「特別警報」の運用を開始しました。

「特別警報」は、「警報」をはるかに超える大雨・大地震・大津波・噴火による降灰などが予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合に発表されます。

発表された場合、数十年に一度の非常に危険な状況にあります。命を守るため、最善を尽くしてください。

「特別警報」が発表されないからといって安心することは禁物です。気象情報・注意報・警報などを活用し、早め早めの行動を。

9月の主な防災訓練・講座など

	名称・団体名など	日程	場所・時間	内容
直接会場へ	今泉台町内会	9/7(土)	今泉台7丁目 クローバー広場 10:00~11:30	消火訓練
	浄明寺町内会	9/7(土)	鎌倉青少年会館 グラウンド 10:00~13:00	消火・炊き出し・給水 煙体験・救急講習
	深沢地区	9/8(日)	深沢小学校と 富士塚小学校 9:00~12:00	避難・備蓄庫見学 非常食試食・応急救護 消防車展示
	関谷城廻町内会	9/21(土)	第12分団 器具置場 10:00~12:00	煙体験・救急講習
講座	つどいの広場講座 (ママと赤ちゃんの たまりば)	9/6(金)	植木子ども会館 10:30~11:30	いざという時あわてない 為に(子どものいる家庭 の防災備品のヒントなど)
	対象は未就園児と保護者			
要申し込み	減災行動 あなたと家族の 命を守る! (大船学習センター)	9/19(木)	大船学習センター	減災と市の取り組み などについての講話
		9/26(木)	横浜市民防災セン ター(横浜市中区)	
		10/3(木)	大船消防署	
全3回。時間はいずれも14:00~16:00。対象は市内の人。定員20人。抽選。申し込みは往復はがきで、催し名・住所・氏名・年齢・電話番号を、9/7(必着)までに大船学習センター(〒247-0056大船2-1-26、☎45-7712)へ。				